

---

# ぐだりぐだり ~ 放課後に

ミンチ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ぐだりぐだり ～放課後に

### 【Nコード】

N9515E

### 【作者名】

ミンチ

### 【あらすじ】

これは二人の学生が、ぐだぐだと放課後を過ごすお話。

## (前書き)

前にあった小説をベースに、書き足しと設定を変えてみました。

「ああ!」

「ん? どうした?」

「ここは、とある高校。

「なんか、かめめ波うつる気がする!」

二人しかいない放課後の教室で、カズマという少年が急に叫んだ。

「あゝ。その気持ちはわからなくもねえなでもま、気のせいだ  
気のせい」

このイスに座って本を読みながら返事をした美形の少年の名前は  
アキヒト。

特にやることもない二人は、ただダラダラと教室で時間が過ぎる  
のを待っていた。

「わからへんで?もしかしたらできるかもしれへんやん?」

「じゃあやってみるよ」

「おう!ちゃんとみててや!」

カズマは例のポーズをとりながら、本を読んでいてこちらを見よ

うとしないアキヒトに話しかける。

「わかったから早くしろ」

アキヒトは本から顔を上げ、カズマを見る。

「かゝめゝはゝゝ波ア!!!」

「……………」

「……………」

教室が静まりかえる。

「じめん……」

「ああ…… 気にすんな、誰がやってもそつなるんだよ」

「次、アキヒトもやってみてや」

「俺が？ 嫌だよ」

「頼むわ！ お前のみじめなとこオレも見てみたいねん！」

「なおさら嫌だ！」

「お願いします！ このとおり！」

カズマはアキヒトに土下座して頼みこむ。

「はあ、一回だけだからな」

「いやったあいー!!」

「喜びすぎだろ… か はめ波ー」

アキヒトはまったくやる気のないかめは○波をうつつりをする。

「ドカアアン!!!」

「おわ!?!」

「……ニヤリ」

「びっくりさせんなよ… なんだよドカアアンって」

「いや、迫力をだそうと思ってな」

「それで迫力はでたのか?」

「でんかった」

「……」

「……」

アキヒトは無言でイスに座り直し、本の続きを読みだした。

10分後。

「なあ」

「ん？」

「今週の日曜ヒマ？」

「ヒマだけどなんで？」

「実は今週の日曜、彼女とデートやねん」

「うん… え？ それで？」

「それだけ」

「なるほどな… なぜ俺の予定聞いた？」

「意味はないけど、何してるんかな〜て思って」

「あつそ…」

「それで一緒にお化け屋敷行くんやけど、そんな時どーユーリアクシヨンとればいいんやろ？」

「堂々としとけばいいんじゃないの？」

「ん〜… ちょい予行練習したいから手伝ってくれへん？」

「別にいいけど、彼女役でもすればいいのか？」

「いや、遊園地に行く途中に立ち寄る予定のファミレスの店員の役

お願い」

「そこからすんのか！？　せめてお化け屋敷の入口からにしないか？」

「んじゃお化け屋敷から『恐かったね』って言ってでてくる女の子の役してや」

「…こ、恐かったね」

「はいよかったな。　じゃあ次彼氏役、つまりオレの役して」

「……カズマは何すんだよ？」

「彼女役する」

「逆じゃねえのか？」

「私こわい」

そう言ったカズマは突然、アキヒトの腕にしがみついた。

「まで。　さすがにまずくないか？」

「えゝ　なにがゝ　私わかんない」

「…お前の彼女ってそんな感じなのか？」

「まあだいたいこんな感じやな」

「そ、そうか…」

「ねえねえ」

「なんだよ？」

「お金ちょうだい？」

「……お前の彼女ってそんな感じなのか？」

「うん。まあこんな感じ」

「それ、早く別れた方がいいぞ」

「別に大丈夫やで」

「なぜ？」

「ウソやから」

「なんだウソか。さすがに金せびってくる彼女なんかいいねえわな」

「いや、もうちょい前から」

「え？ お化け屋敷行くところか？」

「ちやう」

「じゃあどこからだよ？」

「かめめ波うつてる気するってと」から

「そこからか…」

「うん」

「……………」

「……………」

「帰るか……………」

「やな」

二人はそのまま黙って教室をあとにした。

(後書き)

まあコラボですね

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9515e/>

---

ぐだりぐだり ~ 放課後に

2010年10月26日06時22分発行